

[実践研究]

# 学校に絵を描くということ (1)

6学年「共同してつくりだす活動」の活動場所の比較を通して

久保田 美和

## A Practice Study of Painting on School Walls (1)

Through a Comparison of the Locations of 6th Grade “Co-Creation Activities”

KUBOTA Miwa

### 要約

「共同してつくりだす活動」は、友人との交流によって様々な発想や構想、表し方等があることに気づきながら、作品を仕上げていく児童の心に残る活動である。しかし、現状は、個人の製作過程や、相互鑑賞活動等に重点が置かれる傾向が強く、題材開発が求められている。そこで本稿では、大規模改造工事が行われる廊下や教室を活動場所とした「共同してつくりだす活動」を提示する。日常では描くことが許されない廊下の壁や教室の床、黒板、ロッカーに絵を描く6学年の2年間の実践である。児童は、活動場所（廊下、教室）から学級ごとにテーマを考え、共用アクリル絵の具を使用した表現、鑑賞を行った。実践を比較した結果、児童の「共同してつくりだす活動」は、活動場所の広さや奥行、場所の公共性によって、友人との関わり、身体的な動き、意識、発想に違いがあることがわかった。

キーワード：共同してつくりだす活動、活動場所、学習指導要領、比較、大規模改造工事

### 1. はじめに

本稿は、小学校学習指導要領解説図画工作編（平成29年告示）において、第4章指導計画の作成と内容の取扱い1（5）「共同してつくりだす活動」に注目したものである。児童が作品の目標を共有し、活動を通して人と関わり合う「共同してつくりだす活動」は、児童の心に残るものであり、互いを高め合う活動につながると考える。松井は「図画工作科の共同製作が育む新しい可能性の探求—ジョンソンらの協力学習法に基づく協同製作の題材開発—」において、美術教育では児童

たちの感性を豊かにするという目標に対し、個人の製作過程や、相互鑑賞活動等に重点が置かれている点を指摘し、共同製作の題材開発の必要性を記している。そこで、本稿では、大規模改造工事が行われる学校の廊下、教室等を「共同してつくりだす活動」の活動場所として提示する。学校において、トイレ改修やエレベーター設置等の為に工事は日常的に行われている場合が多い。このような工事の機会を捉え、実践することは、今後の題材開発につながっていくと考える。

考察の方法としては、第1に学習指導要領の「協働」「共同」「協同」について確認する。これ

は、学習指導要領「共同してつくりだす活動」において、「特に、決められた部分を受け持つだけで活動が終わらないように留意し、児童一人一人が共に活動をつくりだしている実感が持てるように工夫することが重要である。」という一文があるように、「きょうどう」には、共同、協働、協同があり、それぞれの捉え方が異なる。学習指導要領の出現数を確認し、意味を再確認するためである。

第2に、6学年の2年間の「共同してつくりだす活動」を活動終了後のアンケートを基に示す。

第3に、第2で示した活動場所（廊下、教室）は異なるが、同じ時期（7月）、同じ材料（共有アクリル絵の具）を使用して描く2年間の活動を比較して考察する。本実践では、廊下の壁や教室の床、黒板、ロッカーという広い場所が画面となる。磯村は「図画工作科での描画活動における作品及び画用紙サイズに対する意識の考察」において、児童は、描画活動において、それぞれ異なる作品イメージがあるにもかかわらず、与えられた画用紙サイズに合うようにイメージを変容させた描画をすることを記している。活動場所によって変化する児童の身体的な動き、友人との関わり、描く傾向等に注目したい。

## 2. 小学校学習指導要領における「共同してつくりだす活動」

### （1）協働、共同、協同の出現数

小学校学習指導要領解説図画工作編（平成29年告示）第1章～第4章において、協働、共同、協同の出現数について確認（付録は除く）し、出現した言葉を句読点の中の文章で表す。

#### ①協働 出現数3か所

第1章総説

1頁 他者と協働して課題を解決していくことや、

2頁 連携・協働しながら、

第2章図画工作科の目標及び内容

30頁 用具を用いることは人と協働したり、

#### ②共同 出現数4か所

第4章指導計画の作成と内容の取扱い

108頁 共同してつくりだす活動

108頁 適宜共同してつくりだす活動を取り上げるようにすること。

108頁 適宜共同して製作する内容を取り入れることを示している。

108頁 共同して活動することは、

#### ③協同 出現数0か所

##### （2）学習指導要領における協働、共同、協同

「協働」は、1頁「他者と協働して課題を解決していくことや、」等から考えられるように、何らかの目標を共有し、共に力を合わせて活動することが読み取れる。「協同」は、出現数はなかった。

「共同」は、「共同してつくりだす活動」の108頁のみで使用されている。「共同して活動することは、様々な発想や構想、アイデア、表し方などがあることに互いに気付き、表現や鑑賞を高め合うことにつながる。」と記されている。さらに、活動を設定する場合について、「児童の実態を考慮するとともに、児童の一人一人の発想や構想、技能などが友人との交流によって一層働くようにすることが大切である。」と述べられている。これは、共同製作で使われる「共同」との意味の混同を防ぐために用いられていると考えられる。共同製作は、一枚の絵画を人数で分割して完成させるというように、同じ立場の構成員全員が割り当てられたものを活動する意味で使用されることが多いからである。本稿では、「共同してつくりだす活動」は、共に活動することを通して、互いに高め合う活動と捉える。

## 3. 「共同してつくりだす活動」の2年間の実践

本実践のスタートは、筆者の勤務する小学校の3年間にわたる大規模改造工事（2021年度、2022年度は校舎、2023年度は体育館）にある。工事内容は、壁の塗り替え、床の張り替え、ロッカーの取り替え、トイレや給食室の改修等、多岐にわたる。この工事は、児童の生活と共に進み、児童にとって騒音、教室の引っ越し、給食の半年以上の停止等、不便な面が多い。この大規模改造工事の期間に当たった児童や教師にとって「運が悪かった」「学校がきれいになるまでの我慢」という思いを、大規模改造工事があることによって「特別

な体験ができた」という思いに少しでも変換したいと校長である筆者は考えた。

そこで塗り替える、取り替える場所を活用して、「共同してつくりだす活動」ができるのではないかと気付いた。日常生活の中で、壁や床等に絵を描く機会は少ない。この機会に、壁や床等に思いっきり絵を描くとしたら、心に深く残る活動になるだろう。

壁を描く材料としては、共用アクリル絵の具を使用する。共用アクリル絵の具は、乾くと耐水性になり、耐久性が強いため床や壁に定着しやすい。また、乾燥が早く、重ね塗りができるので、児童が失敗と感じた部分でも直しやすい。初めて壁や床で共同してつくりだす活動をする児童にとって扱いやすく、新たな活動を思いつく材料であると予想された。

工事の関係で、2021年度は廊下、2022年度は教室の実践を最高学年の6学年が学校の代表という形で行った。本実践の職員会議提案、資料、指導案作成は、筆者が行った。指導案を検討する中で、担任から、「この場所を学級でつくる意識を持たせたい。学級で話し合う時間を設定したい。」という意見があった。学級全体で話し合うことは、学級でこの場所をつくりあげるという目標を共有することである。場所に対する学級全体のイメージが共有され、個人の考えも明確になると考えた。

授業は、担任が行い、筆者は授業準備及び活動中の観察を行った。

### (1) 2021年度 廊下の実践

#### ①活動場所

廊下1階～3階を各クラスに割り当て。

図1は、各学級に割りあてた廊下である。業者と確認し、壁の着色が可能となった。

図1 活動前の廊下



#### ②活動名

廊下を通る人たちが幸せな気持ちになる〇〇通り

#### ③目標

##### 知識・技能

##### ○知識

廊下に特徴を活かしてつくることを通して、バランス、奥行き等を理解することができる。

##### ○技能

共用アクリル絵の具の扱いを理解し、ローラー、刷毛等を使いつくることができる。

##### 思考・判断・表現

##### ○発想や構想

空間の特徴を基に造形的な活動を思い付き、構成したり周囲の様子を考え合わせたりしながら、どのように活動するかについて考えることができる。

##### ○鑑賞

身近な場所にあるものや自分たちのつくりだしたものの造形的なよさや美しさ、表現の意図や特徴等について、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を深めることができる。

##### 主体的に学習に取り組む態度

○主体的に場所にあるものの形や色等を活かして、「廊下を通る人たちが幸せな気持ちになる〇〇通り」の学習活動に取り組み、つくりだす喜びを味わうとともに、形や色等に関わり豊かな生活を創造しようとするすることができる。

#### ④対象学年 6学年 3学級 82名

共用アクリル絵の具を使用した経験は、ほとんどの児童がない。4月から6月に校舎の風景画を水彩絵の具で描いている。コロナ禍の為、宿泊学習等の体験活動の機会が少ない。

#### ⑤指導計画

- ・担任から、「廊下を通る人たちが幸せな気持ちになる〇〇通り」構想について聞く……時間外
- ・場所を確認し、学級でテーマを決める……1時間
- ・ローラーで描く……1時間
- ・描く場所を決め、チョークで描く……1時間
- ・共用アクリル絵の具で描く……2時間
- ・鑑賞……1時間

## ⑥活動の実際

終了後に行ったアンケート結果から、児童の心情の変化を確認する。

### テーマを決めた時 (図2①)

「廊下を通る人たちが幸せな気持ちになる〇〇通り」の構想を聞き、学級テーマを決める話し合いを行った (表1)。

表1 各学級のテーマ・設定理由

学級	テーマ	設定理由
6-1	ファンタジー通り	空想の世界を、見て、楽しんでほしい。
6-2	春夏秋冬通り	自然が少ないから四季の美しさを感じてほしい。
6-3	宇宙通り	自分たちの自由な発想を全校に届けたい。

活動終了後のアンケートで、「とても楽しい65%」と答えた理由は、「廊下を学級でどのように変えられるのか考えるとワクワクした。様々な意見が出た。」等がある。「楽しくない4%」と回答した理由は、「自分の出したテーマにならなかった。」等であった。

各学級にとって廊下という場所は、全校児童に見られるという意識があり、1時間の話し合いでは終了しない学級もあった。

### 描く場所を決めた時 (図2②)

廊下は長く、天井まで使用できる場所、窓の下、扉の近く等、様々な場所があった。「とても楽しい26%、楽しい55%」は、希望の場所になっ

た事が理由である。個人で描く、グループで描くことについては、本人に任せた。

### ローラーを使った時 (図2③)

図3 ローラーで下塗り



ローラーを使った時が、「とても楽しい75%」は、最も多い。理由としては、「思い切り描けたから。ローラーが楽しい。ローラーで工夫し色々な線を引けた。皆と一緒に描けた。前からやってみたかった。」等がある。図3にあるように長い廊下を大胆に使えたことが楽しさにつながったと考えられる。

### アクリル絵の具を使った時 (図2④)

「とても楽しい70%」の理由は、「初めて壁にアクリル絵の具で描いた。思い通りにできた。友人と描けた。」である。

図4 「ファンタジー通り」を描く様子



図2 2021年度 活動終了後のアンケート (%)

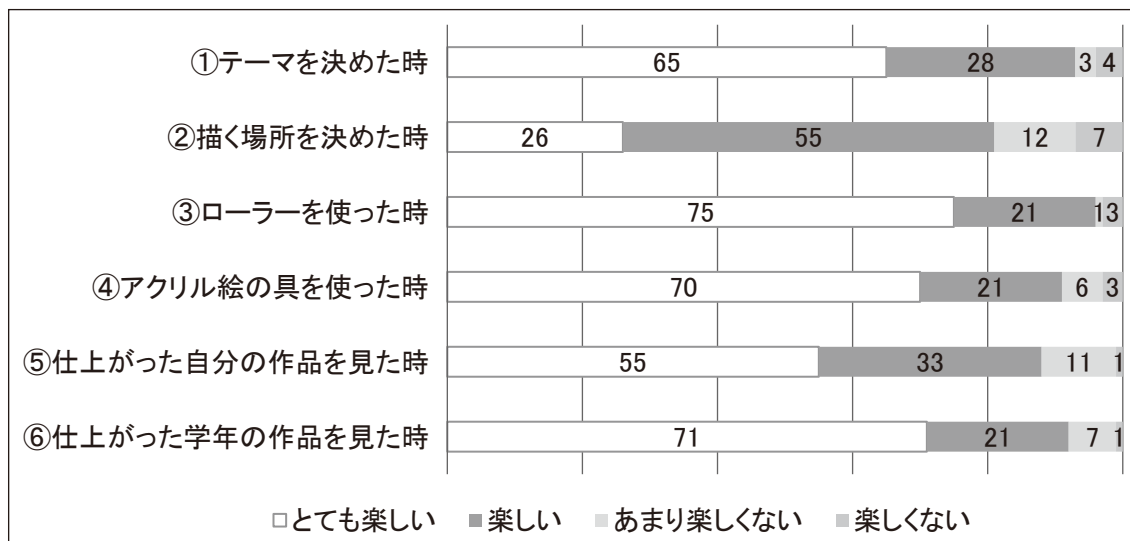




図4は、「ファンタジー通り」を描いている。

「恐竜の運動会だから赤いハチマキの恐竜も描いた方がいいよね。1年生が喜んでくれるかな。」と、廊下を通る低学年の気持ちを友人と想像しながら描いている様子である。

図5 「春夏秋冬通り」を描く様子



図5は、「春夏秋冬通り」を描いている。桜の花びらが舞う様子を描き始めた一人に、「かっこいい。手伝うよ。もっと花びらを描こう。」等と話しながら描いている様子である。

図6 「宇宙通り」を描く様子



図6は、「宇宙通り」を描いている。この児童は友人と関わらず、宇宙通りのテーマから構想した地球の絵を時間終了まで色にこだわり、熱心に描いた。

活動場所は、細長い廊下である。児童は、自身の作品の周囲で活動している様子を見ることはできたが、学級の全体を俯瞰して見ることはできなかった。活動の時間の制限もあり、他の階の作品を見ることはできなかった。

仕上がった自分の作品を見た時 (図2⑤)

図7 児童作品



「とても楽しい55%」の理由は、「上手くいった。達成感。皆に見てもらえる。」である。ファンタジー通りでフラミンゴを描いた児童は、「大好きな図書室の前を、優しいフラミンゴが守る気持ちを表した(図7)」と話している。一人一人が場所から発想した思いを持って描いたことがわかる。

「あまり楽しくない11%、楽しくない1%」の理由は、「思ったように描けなかった」であった。

仕上がった学年の作品を見た時 (図2⑥)

活動終了後に作品を鑑賞した。図8は、完成した宇宙通りである。児童は、自分の学級の通りを見て、「うちのクラス、すごい。きれいだね。」等、様々な感想を語った。

図8 完成した宇宙通り



続いて、他学級の描いた別の階に行き作品を鑑賞した。「とても楽しい71%」と答えた理由は、「いろいろな作品があった。すごい。各クラスの特徴が出ていて楽しい。6学年の力を感じた。みんなに自分の作品を見てもらえた。」等である。

図9 1学年に自分の作品の紹介をする6学年



仕上がった自分の作品を縦割り活動でよく遊んであげている1学年に紹介する等、作品を通して交流する場面もあった(図9)。

他学年は、学級ごとに6学年の作品を鑑賞し、テーマを想像する、感想を書く等の活動を行った。

## (2) 2022年度 教室の実践

### ①活動場所

使用中の自教室

図10 教室



図10は、各学級に割り当てた教室である。業者に確認し、床、背面の壁、交換する家具（黒板、ロッカー、清掃用工具箱）の着色が可能となった。

### ②活動名

さようなら教室

### ③目標

#### 知識・技能

##### ○知識

教室の特徴を活かしてつくることを通して、バランス、奥行き等を理解することができる。

##### ○技能

共用アクリル絵の具の扱いを理解し、刷毛等を使いつくることができる。

#### 思考・判断・表現

##### ○発想や構想

空間の特徴を基に造形的な活動を思い付き、構成したり周囲の様子を考え合わせたりしながら、どのように活動するかについて考えることができる。

##### ○鑑賞

身近な場所にあるものや自分たちの作りだしたものの造形的なよさや美しさ、表現の意図や特徴等について、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を深めることができる。

#### 主体的に学習に取り組む態度

○主体的に場所にあるものの形や色等を活かして、「さようなら教室」の学習活動に取り組み、つく

りだす喜びを味わうとともに、形や色等に関わり豊かな生活を創造しようとすることができる。

### ④対象学年 6 学年 2 学級 61名

共用アクリル絵の具を使用した経験は、ほとんどの児童がない。4月から6月に学校の中で、自分の大切と思う風景を水彩絵の具で描いている。コロナ禍の為、体験活動の機会が少ない。2021年度に、卒業した6学年の「廊下を通る人たちが幸せな気持ちになる〇〇通り」を鑑賞している。

### ⑤指導計画

・担任から「さようなら教室」の

構想について聞く …………… 時間外

・学級テーマ、描く場所を決める …………… 1 時間

・共用アクリル絵の具で描く …………… 2 時間

・鑑賞 …………… 1 時間

2021年度の実践の反省点として、ローラー、チョークの下描きの時間は時数として多すぎること、また、使用している教室であるので、活動時間は限られることがあり、2時間扱いでローラーや下書きは描かずに活動することとした。

### ⑥活動の実際

活動終了後に行ったアンケート結果から、児童の心情の変化を確認する。

#### テーマを決めた時 (図11①)

「さようなら教室」の構想を聞き、学級テーマを決める話し合いを行った(表2)。各学級、様々な意見が出た。

「とても楽しい41%、楽しい45%」と答えた理由は、「自分も昨年の6学年のような絵が描きたいと思っていた。教室に絵を描くのが夢だった。描きたい絵が浮かんだ。自分の希望通りになった。様々な意見が出た。」等がある。「楽しくない3%、あまり楽しくない11%」と回答した理由は、「決める中で意見が分かれ雰囲気が悪くなった。自分の教室が工事されるのがさみしかった。」等がある。1学級は、テーマを決める中で意見が分かれ、1時間の話し合いでは決まらなかった。前年度の6学年の作品を見ているため、構想のある児童が多いこと、また表2設定理由にあるように日常使用している教室への思いも影響していると考えられる。

表2 各学級のテーマ・設定理由

学級	テーマ	設定理由
6-1	陸と海	いつもの教室の床面を海に、壁面を陸の世界にしたい。
6-2	宇宙	誰も見たことのない宇宙を教室に表現したい。

描く場所を決めた時 (図11②)

「とても楽しい49%、楽しい49%」の理由は、「ついに描くのだとワクワクした。色々な場所が選べた。」等がある。昨年度の6学年が描いている姿を見ていることで、最高学年になり、自分たちも描けるという喜びを持った児童が多かった。

アクリル絵の具を使った時 (図11③)

「とても楽しい80%」の理由は、「友人と計画した海の生き物が描けた。ロッカーが海の生き物の家のように思えた。描くものがすぐに思い付いた。オリジナルの宇宙人が描けた。ダイナミックに描けた。太陽や雲の形をグラデーションで表現できた。」等がある。

授業時数の関係もあり、下描きはせず、アクリル絵の具で直接描いた。大半の児童たちは、床、壁から描いた後、ロッカー等の小さい空間を描く傾向があった。

図12 床面に描く児童



図11 2022年度活動終了後のアンケート (%)

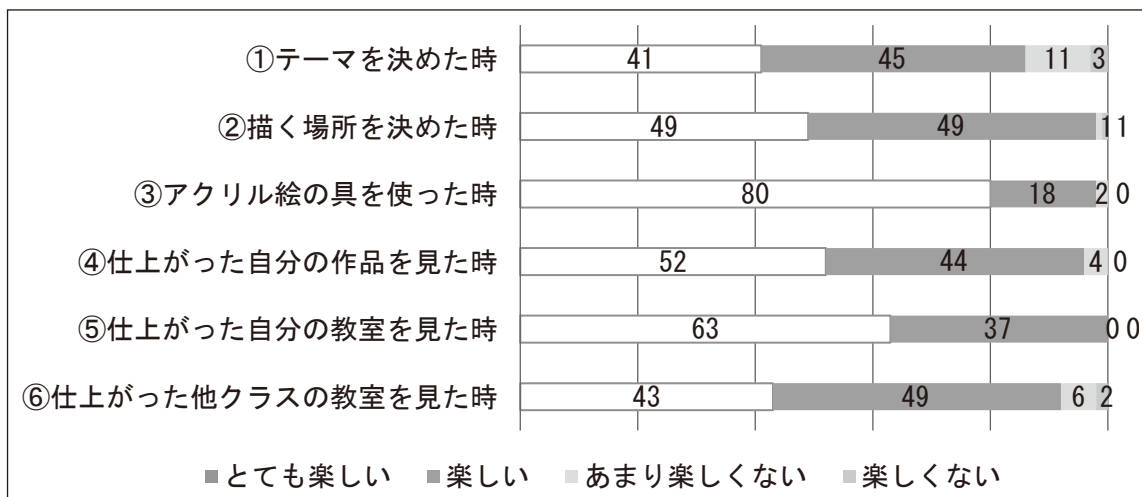


図12は、「陸と海」を描いている。床面を海と考へ、海の生き物を表現した。国語教科書にあった絵本「スイミー」のイメージで描いている。

図13 黒板、壁面を描く児童



図13は、「陸と海」を描いている。黒板に富士山を力強く描いた後、虹等の周りの風景を描き始めた。その後、黒板の上へと活動を広げた。

図14 清掃ロッカーに描く児童



図14は、「宇宙」を描いている。清掃用具ロッカーの中に宇宙人を描き「扉を開けたら、みんな驚くね。」と笑顔を浮かべていた。

図15 床・ロッカー・壁に描く児童



図15は、床、壁、黒板、ロッカーに描いている様子である。児童は、個人または友人と一緒に床→壁→床や、壁→ロッカーというように時間内に描く場所を移動していた。

図16 友人と一緒に描く児童



図16は、友人に「一緒に手伝ってもいい？」と声をかけ活動している。その場その場で友人と話し発想し表現した。

仕上がった自分の作品を見た時 (図11④)

「とても楽しい52%」の理由は、「上手くいった。自分で決めていたものを表現できた。工夫できた。」等である。

図17 ロッカーの内部を描いた作品



図17は、ロッカーの中に、宇宙空間を表現した。「いつも使っているロッカーに別の世界ができた。暗い色を塗ってから筆を振って星のイメージを表現した。」と話している。「あまり楽しくない4%」の理由は、「思ったように描けなかった。」である。

仕上がった自分の教室を見た時 (図11⑤)

「とても楽しい63%、楽しい37%」である。100%の児童が仕上がった自分の教室に満足感を持っている。理由は、「達成感があった。みんなで作ったものを見て楽しかった。皆がすごいものを書いていた。きれいだった。わくわくした。カラフルな教室になった。この教室を最後に自分たちの手で変身させることができた。」等である。

仕上がった他クラスの教室を見た時 (図11⑥)

「とても楽しい43%、楽しい49%」である。理由は、「自分のクラスと全然違った。世界観の違いに驚いた。ワクワクした。」等である。「あまり楽しくない6%、楽しくない2%」の理由は、「自分のクラスが一番だと思った。見ていない。」等である。多くの児童が、自分の教室と比較していることがわかる。

#### 4. 考 察

本実践は、日常使用している校舎を大規模改造工事で塗り直す、交換する機会を活用した2年間における「共同してつくりだす活動」である。日常では許されない、壁、床、ロッカー等に、学級ごとにテーマを決め、共用アクリル絵の具を使用して校舎を作り変えた。活動終了後のアンケート (図2、図11) では、活動の大半を90%の児童が「とても楽しい、楽しい」と回答している。以下、2021年度に廊下、2022年度に教室で実践した「共同してつくりだす活動」の比較による考察である。

##### (1) 場所による活動と友人との関わりの比較

本実践のスタートとなった大規模改造工事は、工事の内容によって、修繕する場所は異なってくる。これに伴い、活動可能な場所が異なった。

(2021年度 廊下の実践)

活動可能な場所 ..... 壁  
活動 ..... ローラーで描く、刷毛で描く

(2022年度 教室の実践)

活動可能な場所  
..... 床、壁、黒板、ロッカー、清掃用工具箱  
活動 ..... 刷毛で描く



表3 場所、活動ごとの児童の動き、友人との関わり

場所	活動可能な場所・活動	児童の活動	友人との関わり	観察から考える場と友人との関わり
2021年度 廊下	壁をローラーで描く共同してつくりだす活動	長い廊下をローラーの絵の具がなく なるまで線を引き続ける(図3)。 点々に描く。くねくねと手を動かして描く。天井に向かって高く描く。 一箇所を塗る。	友人の動きを見る。 まねる。	友人との関わりより、長い壁をローラーで描く活動そのものを楽しむ傾向であった。
	壁を刷毛で描く共同してつくりだす活動	1人の描く(友人と共同も可)場所は、 横幅が1m程度。場所によって、 窓の下、窓がなく天井近くまである等、 大きさが異なる。刷毛を使用し、 座り込む、立つ等、場所に応じて描いて いた(図4~6)。	自身の描いている場所の周囲の友人と 一緒に描く、作品と作品をつなげる。一 人で描く。	自分(自分達)の描きたいものをまず、 描き、終了してから、周囲の友人と関 わる傾向であった。廊下が細長いので、 全体像は把握しにくかった。
2022年度 教室	床を刷毛で描く共同してつくりだす活動	まず床に座り、自分の描きたい場所 が決定する(図12)。その後、刷毛 を使い、座って描く、中腰で描いた。 時間が経過するにつれ、共用ア クリル絵の具を床に垂らし塗る、 グラデーションを考えて塗る、刷毛を 振る、手で塗る等、これまでの造形 的な経験を踏まえた、さまざまな描 き方を工夫した。	図16のように、四方 から絵を囲めるので、活動途中から、 友人が話しかけ、一緒に加わる、相 談する。友人の動きや作品を見る、 まねる等が多く見られた。	自分(自分達)の描きたいものを まず描き、終了してから友人と関 わる傾向があった。教室は四角く 周囲を見渡せるので、自然と友人 の作品、工夫がわかる。固定の友 人との関わりだけではなく、作品 を通した関わりがあった。
	清掃用具箱、ロッカーを刷毛で描く共同してつくりだす活動	狭い場所である為、一人で描く傾向 が高かった(図14)。床や壁と比較 すると囲まれた空間となる(図17)。 小宇宙、ロッカーを生き物の住処に 見立てる等、児童のいたずら心が発 揮され、塗る、描く、筆を振る等の 様々な試みが見られた。	友人が描いた作品、友人が描いて いる様子を見て、新たな発想を浮 かべ描いていた。ロッカーの空 いている場所を探し、一人で描く 傾向が高かった。	大半の児童は、まず、広い場所 を描き、一つ描き終わった後に、 「ここもある」と気づきロッカー 等の狭い場所を描き始める。それ を見て、「私も」と続いていく傾 向があった。
	壁や背面黒板を刷毛で描く共同してつくりだす活動	描く場所が背面に限られていた為、 初めから身長の高い児童が描く傾 向があった(図13)。伸び上がって描 く、ロッカーに上って描いていた。	場所が限られていた為、描く人数が 制限された。初めは、床を描き、 その後、壁に描かれた作品を見て、 発想し描く児童もいた。	6学年の児童にとって、描きにく い高さであった。床に描く場所が なくなってから、壁に目を向け、 描く傾向があった。

廊下の実践は、テーマを決めて壁を描く「共同してつくりだす活動」である。活動内容としては、共用のローラーで描く活動後、アクリル絵の具で描いた。

教室の実践は、テーマを決め、床、壁、ロッカー、黒板に描く「共同してつくりだす活動」である。ローラーは使用せず、刷毛で描いた。ローラーを使用しなかった理由としては、自教室を使用するため、教室内の荷物を全て別教室に移動する等の作業に時間がかかること、他教科の授業時

数確保が大きい。

表3は、同じ材料(共用アクリル絵の具)を使用して「共同してつくりだす活動」を行うが、廊下と教室という場所の違い、活動可能な場所によって、児童の活動や友人との関わりが、どのように行われていたかを筆者が観察しまとめたものである。以下は、表3の比較から考察する。

#### ①場所の広さや奥行で異なる児童同士の関わり

廊下と教室を比較すると、廊下は、細長い空間である。児童は、全体像を把握しにくいこともあ

り、自分の近くで描いている友人との関わりが多かった。教室は、四角い空間であり全体を見渡せる。児童は、教室の中を自由に歩き回り、気になった作品について足を止め、見て話すことができた。また、友人の作品や活動する姿を見て、新たな活動を思い付いた。

児童の活動、友人との関わりは、場所の奥行や広さによって変化することがわかった。

### ②場所の広さで異なる児童の動き

表3にあるように、廊下で行った「共同してつくりだす活動」では、長い廊下を絵の具がなくなるまで線を引き続ける、立って描く、座り込んで描く等、児童は、腕を大きく動かし、身体全体を使って活動している。

教室で行った「共同してつくりだす活動」においても、床や壁、背面黒板を描く活動は、座って描く、中腰で描く、届かない場所は、飛びあがって描く、手で描く、刷毛を振る等、これまでの造形的な経験を踏まえた、さまざまな活動をしている。教室の中での友人の活動している姿を見ることで、児童の動きは、時間を経過するごとに大きくなっていった。

ロッカーは、床や壁と比較すると狭い場所であり、囲まれた空間である。児童は、その中を塗る、描く、刷毛を振る等、細やかな動きの活動をしている。

場所の広さに比例して、児童の動きは大きくなる、友人の活動する姿を見ることによって活動の幅が広がることが確認できた。

### ③児童の関わりやすい活動

表3の5つの活動を比較した結果、2022年度教室「床を刷毛で描く共同してつくりだす活動」が、最も児童同士が関わりやすい活動であると考えられる。理由としては、床面を四方から見て、囲めるので、作品について話せる、描けることが挙げられる。一つの作品を何人もの児童が囲んで見た後、その作品から発想を得て、違う場所で新たに描く等の姿も観察することができた。

場所が広いことが、見やすい、関わりやすいことにつながる。ロッカー等の狭い場所は、個人の活動になり、終了した作品から発想を得ることは

あったが、活動途中に関わることはなかった。

### ④広い場所から描く傾向

教室では、床、壁、黒板、清掃用具箱、ロッカーと様々な場所を描けた。児童の大半は、まず、床を描こうとした。ロッカーや清掃用具箱を第一に描く児童はいなかった。

児童の中に、二度とできない活動であるという意識があった。今後、描くことのできない場所という意識もあり、広い場所から描いたとも考えられる。

### (2) 場所の公共性による意識の違いと活動

テーマを決める段階から全校が通る廊下と、自教室は、児童の意識は異なった。表1、表2を比較すると、テーマ設定理由を廊下は「空想の世界を見て楽しんでほしい。」というように全校児童のためにという意識が強い。教室は「いつもの教室の床面を海に、壁面を陸の世界にしたい。」というように私たちの教室をつくりかえるという意識が強かった。

活動中の児童の発言を比較すると、廊下では、「1年が喜んでくれるかな。」というように描きながらも他者を意識する発言があった。教室では、自分たちの教室をどのように作っていくかという意識が高かった。

活動中の担任の発言を比較しても、全校児童が通る廊下は、「児童たちは楽しんでいますが、最終的にどうなるか不安。」「他のクラスの様子を見よう。」という発言があり、公共性の高い場所で制作している緊張感があった。教室に関しては、「クラスの子が喜んでます。私も一緒に描いています。」「昨年の廊下活動より、教室の方がプレッシャーは少ないですね。」という発言があった。

場所によって児童の意識、指導者の意識が異なることがわかった。

### (3) 「共同してつくりだす活動」とテーマ

2021年度、2022年度の活動共に、児童は学級の場所、テーマを基に活動を行った。担任と指導案を検討中での担任の意見は以下である。

2021年度の廊下の実践

「この場所を学級でつくる意識をもたせたい。廊

下を通る人の気持ちを考えさせたい。その為にはテーマが必要。」

#### 2022年度の教室の実践

「これまで使用していた教室を学級みんなで作りにかえる意識を持たせたい。その為には、テーマが必要。」

高学年の児童にとって、指導者の提案が活動を左右する。本実践の期間はコロナ禍であったこともあり、児童にとって学級での活動は少なかった。担任の学級全員で場所を作り変えたいという思いが強くあり、テーマを学級で話し合い、設定した。本実践においては、テーマを考える時間は、児童が場所について考える機会となり必要であったと考える。作品は、数日後には、工事でなくなる。しかし、活動中の児童の言葉には「どうせなくなるから」という発言はなかった。材料や場所、テーマを基に、資質や能力を発揮していた。

#### (4) 場所の広さと児童の発想

磯村は、児童が描画活動において、それぞれ異なる作品イメージがあるにもかかわらず、与えられた画用紙サイズに合うようにイメージを変容させた描画をすることを記している。本実践において児童の作品は、場所の広さによって変化した。自身の身長より高い廊下壁面の場所で活動した児童は、桜の木を自分の身長より高く描いた(図5)。

教室床面で活動した児童は、両手いっぱい広げて自身の身長と同じくらいの大きさの魚を描いた(図16)。ロッカー内部で活動した児童は、全面を塗り宇宙空間にした(図17)。児童は、場所の広さに合うように発想し、描くことが確認できた。

## 5. おわりに

本研究では、2年間における「共同してつくりだす活動」の活動場所を比較した。活動場所によって、児童の身体的な動き、関わり方、意識、

発想の違いが確認できた。

提示した実践は、筆者が校長として勤務している学校の大規模改造工事の機会を活用した。学校において大規模改造工事は、特別な機会ではある。しかし、巡りあわせによって、教師生活の中で、何度も工事の場に出会うこともある。出会いがあれば実践可能な活動である。しかし、実践においては、教頭、事務職員、技能員、スクールサポートスタッフ等の担任以外の職員の協力があるからこそ成立する。共用アクリル絵の具の予算計画、場の準備、工事関係者との調整等、一人の力では進められないからである。本実践において、協力してくれた教職員に心より感謝したい。

本実践を管理職に紹介する機会に何回か恵まれた。「二度とできない貴重な経験」「数年前にいた学校も工事があった。このような取り組みをしたかった。」という意見もあった。しかし、「壊す前の壁に絵を描く意味はあるのか。」という意見もあった。児童が活動を通して、人と関わり、共に仕上げた体験は、児童の心に残るものである。「共同してつくりだす活動」の教育的意義を今後も伝えていけたらと考える。

2021年度から行われた校舎の大規模改造工事は、2023年度で終了する。自分たちも取り組んでみたい、自分の学級の児童にも経験させたいという児童や教師の声もある。2023年度は、体育館の床を張り替える工事となる。体育館の床全面を使った全校児童での実践を行い、「共同してつくりだす活動」と場所に関して新たに考察していきたい。

#### 参考文献

- ・文部科学省(2018)「小学校学習指導要領(平成29年告示)解説図画工作編」
- ・松井素子(2018)「図画工作科の共同製作が育む新しい可能性の探求—ジョンソンらの協力学習法に基づく協同製作の題材開発—」『美術教育学研究』50
- ・磯村知賢(2016)「図画工作科での描画活動における作品及び画用紙サイズに対する意識の考察」『美術教育学研究』48